別紙様式６

平成　１８　年度　修士課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること）

半側空間無視における空間性選択的注意に対する

プリズムアダプテーションの影響

学位の種類：　修士（　理学療法　学）
保健科学研究科　理学療法学　専攻　学修番号　０５８５４６０６
氏　名：渡辺　学
（指導教員名：網本　和　准教授　）

注：1,000 字程度（欧文の場合 300 ワード程度）で、本様式１枚（Ａ４版）に収めること

半側空間無視(以下 USN)に対する治療法については近年プリズムアダプテーション法(以下 PA)が開発され、方向性注意の変容をもたらすことにより半側無視症状を改善するといわれている。一方 ADL に必要な注意機能としては空間性選択的注意能力が必要とされるが、PA がどのように影響するかについてはほとんど報告されていない。そこで本研究の目的は、課題モダリティの違いによって、PA が運動課題における空間性選択的注意にどのような影響を及ぼすかを明らかにすることである。

対象は右大脳半球損傷患者のうち左 USN を有する 7 例を対象とした。このうち 5 例については車椅子使用による選択的注意課題を、4 例については机上での文字抹消課題を、それぞれ PA の直前直後に行った。また対照群として、USN を有さない右大脳半球損傷患者 5 例と健常高齢者 5 例が参加した。

その結果、目標位置への基準点に対する車椅子通過地点の距離誤差については、USN 視(+)群において目標が中央偏りのとき、PA 前後で大きく左側に変化する傾向がみられた。目標に到達するまでの車椅子遂行時間については、USN(+)群において、PA 前後で目標がより左側に配置されたとき遂行時間減少度が大きかった。文字抹消課題では、抹消総数は PA 後増大し、特に左外に配列された線分に関しては 200%以上の改善率となった。

これらより USN 患者の運動課題における選択的注意は、対象となる刺激全体からの目標刺激の選択性が高まるというより、注意を集中した視野範囲内で相対的に右に存在する刺激への過剰な注意を改善するように影響するものと推察される。また机上課題における選択的注意については、PA が左側への方向性注意が向上したために抹消数の増大がみられたものと考えられ、課題内容や症例によっては影響を与える可能性があることが示唆された。

PA に関する先行研究のうち運動課題を検討としたものは、多くは机上課題を対象としたものである。特に選択的注意に関して運動課題を用いたのは本研究が初めてであり、運動課題においても症例によっては PA により影響があることが示された。一方運動課題においては PA による影響が現れなかった症例もあり、課題モダリティ間で PA による成績に差が見られた。なぜモダリティ間で PA の結果が異なるかについて、その原因については今のところ不明であり、今後の検討課題としたい。